

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	大國 康夫	法人・ 事業所 の特徴	老後や介護に不安を持っておられる高齢者やご家族の方に、施設や住み慣れた地域で、安心して暮らしていただくことを目指しています。
事業所名	あすならホーム二階 堂多機能型ケアホーム	管理者	田中 諒		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	7人	人	人	人	人	15人	人	19人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<p>1. 新しい利用者のアセスメントは担当職員中心で早めに（1カ月以内）すべての項目を記入する。</p> <p>2. サービス記録表にケアプランが記載されているので意識して見ていく。</p> <p>3. 支援変更や相談はガルーンを使用し報告して主任、サブリーダーを中心に決定して実行していく。</p> <p>4. まちかどネットの会や長寿会の体操に参加していく</p> <p>5. 地域資源について知り、事業所だけでなく地域の方と協力して支援する。地域の方（ランチにきていた）とも繋がっていく。</p> <p>6. 職員が地域学習会に参加していく</p> <p>7. 積極的に意見を出し合い、外部からの意見も取り入れて、事業運営に活かす。</p> <p>8. 研修で学んだことを活かしていい事例を作っていく</p> <p>9. プライバシーに配慮した声掛けをしながらケアをしていきます。</p>	<p>1. 新規利用者の担当者の周知が出来ておらず早めの記入には至らなかった。職員が各自声掛けや気遣いを実施しアセスメントを取ることはできた。</p> <p>2. ケアプランや本人様の目標を意識することは出来ていた。ただし、一部の職員だけであり全体としては取り組みなかった。</p> <p>3. ガルーンを活用し自分だけでは知れなかった情報も共有が出来た。要望を共有できたが対応が遅くなる時があった。</p> <p>4. サロンが再開されたこともあり、家族や友人との交流の支援が出来た。</p> <p>5. 地域との繋がりはできていたのでニーズに応えることができた。地域資源を全て把握できていなく上手く活用することが出来ていない。</p> <p>6. 自治会の長寿会へ月に1回の参加は出来たが外部との会議の参加は出来ていない。</p> <p>7. サロンの再開に伴い地域交流の場が作れた。利用者家族からの苦情には迅速に対応し運営に反映できた。</p> <p>8. 法人・エリアでの研修には参加出来たが参加頻度が不十分であった。</p> <p>9. 声掛け時に声のトーン等を配慮しトイレ誘導を実施していた。個人ファイルや書類が出したままになっていることがあった。</p>	<p>1. 担当者をすぐに決めて、決まればすぐに周知してもらいたい。</p> <p>2. 介護職の役割を「支援」と捉える方と「お世話する」と捉える方がいる。「出来ない所を出来るように手伝う」と考えていけるようになる必要がある。</p> <p>3. 業務中に記載する時間が確保出来ない。即対応したいが記載することが多くあると忘れてしまう。</p> <p>4. サロンは再開出来たがコロナで外部への参加を控えた。</p> <p>5. コロナの影響で外部の出入りを最小限に抑えたのでニーズの把握や対応が不十分になった。</p> <p>6. 外部との関わりや会議の参加がコロナで中止になり書面会議へ変更となってしまった。</p> <p>7. 全職員にどのような意見・苦情があるのか周知されていない。より多くの意見を頂けるようサロン活動を充実させたい。</p> <p>8. 参加したかったがスケジュールの都合で参加出来なかった。開催していることが知らなかった研修もあった。</p> <p>9. 書類管理等人任せになってしまい、個々で気を付ける意識が希薄だったように思う。</p>	<p>1. 新規利用者のアセスメントを円滑に進められるよう、利用開始前から事前に担当者を決めておく。</p> <p>2. 職員全員がケアプランの把握に努めやりたい事を実現していく。</p> <p>3. 自立支援を意識したケア。「出来ない所を出来るように支援する。」</p> <p>4. 長寿会の参加、サロン活動の充実。</p> <p>5. 引き続き、地域資源について知り、事業所だけでなく地域の方と協力して支援する。地域の方（ランチにきていた）とも繋がっていく。</p> <p>6. 地域に向向き、どのような学習会があるのかを知り参加していく。</p> <p>7. 地域との交流を多く持ち苦情があった場合は迅速に対応し事業運営に反映していく。</p> <p>8. 認知症ケアを学び実践し、利用者が落ち着ける環境作りに励む</p> <p>9. 引き続き、プライバシーに配慮した声掛けをしながらケアをしていきます。</p>

B. 事業所の しつらえ・環境	利用者様以外の子供から高齢者まで、どなたでも出入りできる場所づくりを目指す。	コロナも第 5 類に分類され新しい事業所にサロン活動等に参加していただけるようになった。	新築に移転し、気持ちよく利用させてもらっています。	地域に開かれた場を引き続き提供していく為に、サロン活動を積極的に実施していく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事イベントに参加する。 (長寿会、健康体操等)	月に 1 回開かれる健康体操に参加することが出来た。	コロナ対応も緩和されてきたので地域の行事に参加していく。	引き続き地域の行事イベントに参加する。 (長寿会、健康体操等)
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	来年度より新築移転するので、地域へ出向いて、近隣高齢者の事、利用者が住む地域の事を知る	地域の文化祭りに参加し自治会長さんや地域の方々と交流することが出来た。	参加してもらうことによって職員や利用者さんのことを知ることが出来た。	行事や地域の集まりに職員だけでなく利用者も一緒に参加し交流を図っていく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	地域代表の方や包括支援センターの方にも書面で意見や情報を募り運営に活かしていく。議事録はメンバーに配布する。	家族の声や地域の声聞いて対応されていました。	体操以外の行事にも参加してもらい地域との関わりをより一層増やしてもらいたいです。	引き続き、地域代表の方や包括支援センターの方にも書面で意見や情報を募り運営に活かしていく。議事録はメンバーに配布する。
F. 事業所の 防災・災害対策	事業所の防災計画を地域の人に知ってもらうために、防災訓練時に防災計画の学習会を行う。	学習会や防災訓練には参加することが出来なかった。	年明けに震災もあったので防災訓練や学習会に参加したい。	BCP を作成し、地域の方々にも知ってもらう為に学習会を開催する。